

1989年2月

一般講演

S-329

457 軽症子宮内膜症患者における腹腔鏡所見と腹水中 Prostaglandin (PG) の関係

東邦大第1

森田峰人, 矢野義明, 浅川真也子, 小林信一,
武井成夫, 油田啓一, 小島栄吉, 大村 剛,
平川 舜, 百瀬和夫

〔目的〕子宮内膜症患者のマクロファージやPGなどの腹水中因子と不妊の関係が注目されている。本研究では、軽症子宮内膜症の腹腔鏡所見(特に色調)の違いによる腹水中PG濃度を検討した。

〔方法〕r-AFS分類のStage IとIIの子宮内膜症患者22名、コントロールとして非内膜症性不妊患者(NEと略)10名を対象とした。腹腔鏡検査施行時に腹水を採取し、腹水中PG(PGE₂, PGF_{2α}, 6-keto-PGF_{1α}, TXB₂)濃度を測定した。子宮内膜症患者は腹腔鏡所見により、①黒・茶色を中心としたpigmented内膜症(PEと略)(12名),②赤色を中心としたnonpigmented内膜症(NPEと略)(10名)の2群に分類した。腹腔鏡施行時期は卵胞期後期とした。

〔成績〕腹水量はNE: 6.7±2.7ml, PE: 16.8±10.3, NPE: 8.3±4.1でありPEはNEやNPEに比べ有意($P < 0.05$)に増加していた。PGE₂濃度はNE: 20±9 pg/ml, PE: 33±22, NPE: 49±22でありNPEでNEに比べ有意($P < 0.01$)に高値を示した。PGF_{2α}濃度はNE: 53±20 pg/ml, PE: 73±21, NPE: 100±55でありNPEはNEやPEに比べて有意($P < 0.05$)に高値を示した。6-keto-PGF_{1α}濃度はNE: 112±80pg/ml, PE: 159±78, NPE: 526±381とNPEはNEやPEに比べて有意($P < 0.01$, $P < 0.02$)に高値を示した。TXB₂濃度はNE: 33±14pg/ml, PE: 73±31, NPE: 124±93とPEやNPEはNEに比べて有意($P < 0.01$, $P < 0.02$)に高値を示した。

〔結論〕NPEでは腹水中PG濃度がPEに比べ、より高値を示した。腹水中の高濃度のPGは、正常な内性器の機能を阻害する可能性があり、PEよりNPEにおいてその影響が大きく、腹腔鏡を用いた詳細な観察により、早期内膜症であるNPEを発見することが臨床上重要であると示唆された。

458 Gestrinone(R2323)の卵巣直接作用

藤田学園保健衛生大, 東歯大市川病院*
神谷貴之, 吉村泰典, 丸山邦之, 沢田富夫,
河上征治, 福島 穂, 小田高久*, 大野虎之進*

【目的】19-nortestosterone誘導体であるgestrinone(R2323)の卵成熟及び卵胞破裂機序に及ぼす直接作用についてin vitroでの家兎卵巣灌流装置を用い検討した。

【方法】日本白色家兎を用い、(1)一側卵巣をmedium199のみ(対照群), 対側卵巣をR2323 10⁴, 10³, 10²ng/ml(R群)で灌流, 30分後に両側卵巣にhCGを投与し, hCGによってin vitroで惹起される排卵に及ぼすR2323の直接作用を検討した。(2)一側卵巣をR2323 10³, 10⁴ng/ml, 対側卵巣をR2323+progesterone(P:10³ng/ml)で灌流し, 排卵卵子の成熟度, 変性に及ぼすPの効果について検討を加えた。

【成績】(1)R2323はhCGによってin vitroで惹起される排卵, 卵成熟に影響を与えたなかった(ovulatory efficiency; 対照群71.6±5.6, R群52.7±5.2: % GVBD; 対照群92.0%, R群93.3%). R群におけるP, estradiol生合成量は, 各々218.0±21.1, 1.06±0.15ng/mlであり, 対照群との間に有意差は認められなかった。しかしR(10⁴ng/ml)群の排卵卵子の変性率は68.8%であり, 有意($P < 0.001$)に卵変性を惹起した。しかもR2323と変性率の間には用量反応性が認められた。また灌流2 hr後の卵巣組織ホモジネートにおける³H-R5020の結合量は, R2323添加卵巣において有意に抑制されていた。

(2)R2323により惹起された卵変性は, P1μg/mlの補充により, ほぼ完全に回復した(% degeneration, R群70.6%, R+P群21.1%)。

【結論】R2323は, 卵成熟及び卵胞破裂機構に影響を与えないが, その抗P作用により卵変性を惹起する。換言すれば排卵過程におけるPは, 卵胞内におけるpremature degenerationを防禦する意味で極めて重要な要因であることが示唆された。